



見直し摘果マン

りんご生産情報第9号
(8月7日～8月27日)

令和7年8月6日発表
青森県「農林水産力」強化本部

見直し摘果を今一度!
つがるの落果防止剤（ストップール液剤）の散布は8月15～20日頃!!
日焼け・乾燥・鳥害防止対策を万全に!!!

I 概 要

8月1日現在の果実肥大は、干ばつで鈍化しており、平年を下回っている園地が見られる。

園地によっては成らせ過ぎの樹が見られる。今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病虫害被害果、さび果等を主体に、適正な着果量になるまで見直し摘果を徹底する。

つがるの落果防止剤（ストップール液剤）の散布は、8月15～20日頃に行う。

気温が高くなる日が続くので、徒長枝整理や支柱入れ、枝吊り等の際は果実の日焼けを起こさないよう注意する。

降水量の少ない状況が続き、園地が乾燥している。特に苗木や若木、わい性台樹は乾燥の影響を受け易いので積極的にかん水する。

「8月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月14～15日頃に実施する。降雨前の散布を徹底し、散布むらが生じないよう基準散布量を守る。

ハダニ類は発生動向を見極めながら適正な防除を行う。

野鳥による被害を防ぐため、鳥害防止対策に万全を期す。

台風の接近や強風に備え、風害防止対策に万全を期す。

報道機関用提供資料	
担当課	農林水産部りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 工藤 秀樹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報道監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

II りんご生産情報

1 果実肥大、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

干ばつで果実肥大は鈍化しており、平年を下回っている園地が見られる。

○果実肥大

(8月1日現在、横径cm、平年比%)

地域	年	つがる	ジョナゴールド	ふじ
黒石 (りんご研究所)	本年	6.7	-	5.6
	平年	7.1	-	6.2
	前年	7.6	-	6.6
	平年比	94	-	90
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本年	7.2	-	5.7
	平年	7.1	-	6.1
	前年	7.7	-	7.1
	平年比	101	-	94
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本年	7.1	6.5	6.6
	平年	7.3	6.8	6.1
	前年	8.3	7.1	7.0
	平年比	97	95	108
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本年	6.9	-	6.2
	平年	7.2	-	6.1
	前年	7.7	-	7.3
	平年比	96	-	102
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本年	7.7	-	6.1
	平年	7.1	-	6.0
	前年	8.1	-	7.0
	平年比	109	-	102

注) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月5日現在、黒石では平年と比較して、糖度は高く、硬度はやや高く、酸度はやや低く、ヨード反応は同程度で、着色指数は低い。総合的に見て、熟度は平年並と見込まれる。

○つがる(無袋)の熟度の進み

(調査月日：8月5日)

地域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (ポイント)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応
黒石 (りんご研究所)	本年	159	0.0	18.4	12.1	0.351	5.0
	平年	175	0.3	18.0	10.4	0.376	5.0
	前年	200	0.1	17.5	10.4	0.302	4.8

注1 調査系統：普通系

2 平年：2001年～2020年の20か年平均

3 着色指数：0～5 (大きい数値ほど着色良好)

4 ヨード反応：ヨードデンプン反応指数0～5
(小さい数値ほどでんぷんが少ない)

(3) 作業等の進み (8月4日現在)

仕上げ摘果作業は全般に遅れている。仕上げ摘果が終了した園地では見直し摘果が行われている。

支柱入れが行われている。

(4) 病害虫の動き

(8月4日現在 りんご研究所)

斑点落葉病	感染継続中 殺菌剤無散布の県予察圃での新梢葉発病葉率 (スターキング) (7月30日: 本年7.1%、 平年5.2%)
褐斑病	感染継続中
ハダニ類	卵から成虫が混在 幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	平年の第1世代成虫の羽化50%日は8月20日
モモシンクイガ	第1世代成虫の羽化・産卵継続中
ナシヒメシンクイ	平年の第2世代成虫の羽化50%日は8月27日
キンモンホソガ	第3世代幼虫主体
ナシマルカイガラムシ	まもなく第2世代の歩行幼虫が出現する

※調査園地にコンフューザーRが設置されており、対象害虫の誘引を確認できないことから、リンゴコカクモンハマキ、ナシヒメシンクイは平年値のみ示す。

2 作業の重点

(1) 見直し摘果

園地によっては成らせ過ぎの樹が見られる。着果量が多いと、果実品質のほか翌年産の花芽形成にも悪影響を及ぼすので、今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病害虫被害果、さび果等を主体に、適正な着果量になるまで見直し摘果を徹底する。

(2) 乾燥対策

降水量の少ない状況が続き、園地が乾燥している。土壌の乾燥は樹の生育や果実肥大を抑制し、果実の日焼けを助長するため、特に、根域が浅く影響を受けやすい苗木や若木、わい性台樹は積極的にかん水する。水量は1㎡当たり200程度とする。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(3) 徒長枝整理、支柱入れ、枝つり

樹冠内部に日光を入れ、葉液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。また、果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので支柱入れや枝つりを行う。

なお、今後も高温が続くと予想されている。主枝や果実の日焼けの発生を防ぐため、過度な徒長枝の剪去は控える。また、高温時の支柱入れ、枝つりは控える。

(4) 遮光資材の樹上被覆による日焼け果の発生軽減

近年夏季の高温による日焼け果の発生頻度が増している。日焼け防止対策として、遮光資材の被覆が有効である。

晴天で真夏日（最高気温30℃以上）が予想される前日までに被覆し、日焼け発生の可能性がなくなり次第取り外す。遮光資材は遮光率10～20%程度のものを使用し、着色管理等の邪魔にならないよう、支柱等を利用して樹上に設置する。なお、遮光率の高い資材は、年により収穫遅れや着色が損なわれるので使用しない。



遮光資材の被覆例

(5) 恋空の収穫

着色を待ちすぎて収穫が遅れると果肉の軟化につながるなので、適期に収穫する。山選果に当たっては、変形果や日焼け果、病虫害被害果などを取り除き、出荷先の基準により選別・出荷する。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化など品質の劣化が早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

(6) 収穫前落果防止剤の使用

ア ストッポール液剤（1,000倍、展着剤不要）

未希ライフときおうでは8月10～15日頃、つがるでは8月15～20日頃に単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は350～400ℓとする。

ストッポール液剤は葉から吸収されて効果を出すので、葉に十分かかるようにする。葉摘みは散布4～5日後から始める。散布後7日間は収穫できないので注意する。

2回散布や早出しを目的とした極端な早期散布、着色促進剤との併用などは、果肉の軟化や油あがり著しく早まるほか、年によっては裂果やつる元の腐敗が発生するので、絶対に行わない。

イ ヒオモン水溶剤（2,000倍、展着剤不要）

きおうでは8月10～15日頃、つがるでは8月20～25日頃に単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は300～600ℓとする。

薬液が葉先から滴り始める程度に、樹全体に丁寧に散布する。葉摘みは散布当日から始めてもよい。散布後4日間は収穫できないので注意する。
ヒオモン水溶剤を使用した果実の熟度の進みや日持ちは、無処理の果実と同等である。

(7) つがるの着色手入れ

高温が続いているので、果実の日焼けを起こさないよう注意する。

つがるは果面温度の上昇や直射日光により日焼け果が発生しやすいので、早くからの強い葉摘みは控える。葉摘みはある程度着色した頃から始め、収穫までに2回程度に分けて行う。極端な高温の場合は、葉摘み作業を控える。

(8) 鳥害防止対策

野鳥による被害を防ぐため、以下の対策を行う。

ア ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35mm以下とする。

イ 釣り糸を張り巡らす場合は、鳥の種類に合わせた間隔（カラスの場合1m以下）で張るようにするが、ヒヨドリは体が小さく、さらに飛行能力が高いため効果は低い。

ウ ディストレスコールを利用した音声機器や爆音機、かかしなどの防鳥器具は慣れが生じやすいので、ひとつの器具を長期間使用せず、様々な器具を組み合わせながら短期間で変えるようにする。

(9) 「8月半ば」の薬剤散布

黒石、弘前、三戸で8月14～15日頃に実施する。

散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

無袋栽培では毎回、シンクイムシ類防除剤を使用する。

なお、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。

「8月半ば」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	「8月半ば」 8月14～15日頃	オーソサイド水和剤 800倍 又はアリエッティC水和剤 800倍 又はダイパワー水和剤 1,000倍 又はベフラン液剤25 1,500倍	500ℓ

斑点落葉病が問題となる園地では、オーソサイド水和剤以外の薬剤を選択する。

炭疽病の多発条件下では、オーソサイド水和剤を選択する。

褐斑病の多発条件下では、アリエッティC水和剤以外の薬剤を選択する。

アリエッティC水和剤及びベフラン液剤25は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(10) 腐らん病対策

本年も発生が多い。枝腐らん・胴腐らんを放置すると伝染源となるので、すみやかに以下の処置を行う。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

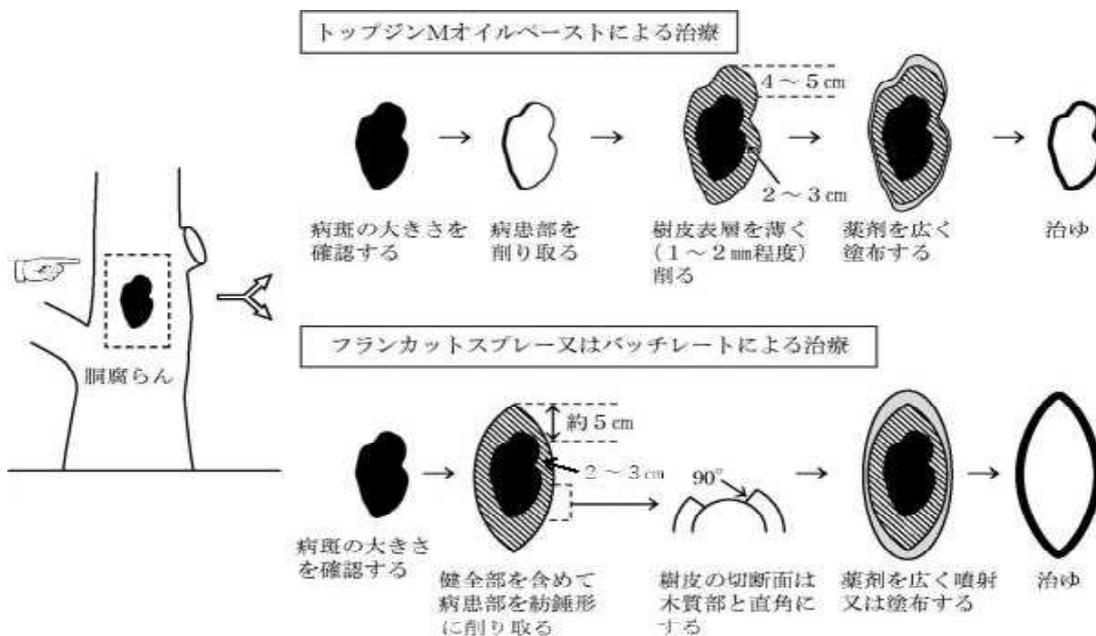
胴腐らんは、見つけ次第治療する。治療済みの病斑も随時確認し、再発が認められた場合は再度処置を行う。

ア トップジンMオイルペースト、フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。なお、トップジンMオイルペーストを使用して再発が確認された場合は、直ちにフランカットスプレー又はバッチレートによる治療か泥巻き法で処置する。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも5～6cm広めに、3～5cmの厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのままにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が9に対してベントナイト（土壌改良資材の一種）1を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練る。この際、ベントナイトは量が多すぎると樹皮が腐敗し、治ゆ効果も低下するので、加える量を誤らないようにする。

ウ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。

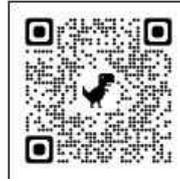


削り取り法による胴腐らん治療の作業手順

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。（<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>）



二次元コード1
：トップジンM
オイルペースト



二次元コード2
：バッチレポート



二次元コード3
：泥巻き法

(11) 黒星病対策

被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(12) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシリンAL水和剤1,000倍も使用する。

ポリオキシシリンAL水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(13) 褐斑病対策

被害葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(14) 炭疽病対策

伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

また、発病果を放置すると二次伝染により被害が増加するので、必ず摘み取り、土中に埋める。

(15) 輪紋病対策

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(16) ハダニ類対策

高温・乾燥が続くと急増するため、よく観察して発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは同系統の薬剤なので、合わせて年1回以内の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）と混用しない。銅剤を散布した後は使用しない。また、散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔をあける。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
カネマイトフロアブル	1回	×	○
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	×
オマイト水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	×
スターマイトフロアブル	1回	○	×
ダニコングフロアブル	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(17) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

(18) ハマキムシ対策

8月以降、発生が多い場合は果実に接触している葉を早めに摘み取る。

(19) クワコナカイガラムシ対策

発生が多い園地では、8月上旬（前回散布の10日後頃）に有機リン剤の防除剤による胴木洗いを行う。また、8月中旬（成虫の産卵前）にバンド巻きを行う。

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋して被害の軽減を図る。

(20) 果樹カメムシ類対策

カメムシ類に果実が吸汁されると、果実肥大に伴い吸汁部位がくぼみ、ビターピットやコルクスポットの生理障害やアブラゼミによる吸汁害に類似した症状となる。園内をこまめに見回り、成虫、卵塊、幼虫が確認されたら、すみやかに捕殺、除去するとともに、必要に応じて、「令和7年度農作物病害虫防除指針」を参考に防除薬剤を散布する。その際、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

令和7年度農作物病害虫防除指針

<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/10884>



チャバネアオカメムシ成虫



チャバネアオカメムシ卵塊
(果実上)



チャバネアオカメムシふ化幼虫

(21) マメコバチの巣箱の回収

マメコバチの巣箱をまだ回収していないところでは、すみやかに回収する。直射日光が当たる所や高温になる所を避け、風通しのよい日陰に保管する。地面からできるだけ離して、巣筒の内部が過湿にならないように注意する。

冬季に温度が上がる場所（暖房する部屋や日光の入る閉め切った部屋など）には絶対に入れない。

(22) ビターピット防止対策

例年よりも樹勢が強い場合は、下表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

ただし、樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水1000当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(23) 縮果病（ホウ素欠乏）対策

欠乏症状が見られたら、直ちにソリボー（葉面散布用ホウ酸塩肥料）を1,000倍（水1000当たり100g）の濃度で7～10日おきに2回散布する。

(24) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、直ちに葉面散布用の硫酸マグネシウムを7～10日おきに散布する。散布は症状の進行が止まるまで、1～4回程度行う。

苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：J A全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJ A等）

硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水1000当たり使用量 (倍数)
グリーントップ	16%	2,000 g (50倍)
グリーントップ70	23%	1,400 g (71倍)

(25) 雪害樹の管理

ア ビターピット対策

雪害の影響で例年よりも樹勢が強い場合は、ビターピットが多くなることが懸念されるので、適宜、対策を講じる。

※ (22) ビターピット防止対策：カルシウム剤の散布方法参照

イ 接ぎ木後に伸びた新梢の結束

接ぎ木や高接ぎ後に伸びた新梢は風で折れやすいので、添え木や支柱に結束する。

ウ 雪害を受けた枝の支柱の手直し、側枝の吊り上げ

果実の肥大に伴い、復旧した雪害の傷口が、再度開いてしまう場合があるので、傷口が開かないよう適宜見直しを行う。

(26) 風害防止対策

台風の接近や強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

3 その他の一般作業

- (1) 草刈り (2) 極早生品種の収穫 (3) 早生品種の着色手入れ

4 今後の作業 (8月28日～9月12日)

- (1) 樹上選果 (2) 早生品種の収穫 (3) 薬剤散布
(4) 高温・乾燥対策 (5) 中生品種の着色手入れ (6) ビターピット防止対策
(7) 苦土欠乏対策 (8) 腐らん病対策 (9) 草刈り

《 雪害を受けた樹の伐採・抜根等に必要な作業用機械の借上げ経費を支援します 》
県では、雪害を受けた樹の伐採・抜根等に必要なバックホーなど作業用機械の借上げ経費を支援しています。

令和6年12月以降の経費が対象となりますので、詳しくは申込先までお問い合わせください。

申込先：各地域の果樹産地協議会

申込期限：令和7年8月末日まで



青森県農薬危害防止運動展開中 (6月～8月) !

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ツキノワグマ出没警報発令中!! (5月1日～11月30日) 》

- ・ 1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・ 野菜・果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・ 農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・ 詳細は県ホームページをご確認ください。

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuu.html)

《 熱中症対策を行いましょう！ 》

◎熱中症予防運動を展開中です（6月1日～8月31日）

熱中症による緊急搬送者が近年増加傾向にあります。こまめな休憩をとり、水分・塩分補給を行い、熱中症を予防しましょう。

◎労働者への熱中症対策が義務化（罰則あり）されました

本年6月に労働安全衛生規則が改正され、労働者を雇用する全ての事業者に対して、熱中症対策が義務付けられました。

熱中症対応フローなど必要事項を記載した「張り紙」を事務所等に掲示しましょう。

「張り紙」のひな型については、青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」に掲載しています。



《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

農作業安全を心がけましょう！

次回の発行は令和7年8月27日（水）の予定です。